



コロナの中での子どもたちの思い

新型コロナウイルス感染症は、子どもたちの生活や成長にも大きな影響を及ぼしていると思います。

本校の子どもたちの様子を見ると、授業や生活などの場面で、本当によく頑張っています。けれども、子どもたち一人一人は、この「コロナ禍」の状況の中で、どのような思いをもっているのでしょうか。

下枠に記載したものは、この6月に行った友達関係アンケートで、子どもたちが書いたものです。

- ・ 家族がかかったら、みんないやだし、おじいちゃんおばあちゃんにかかったら死んじゃうかもしれない。
- ・ かかりそうでこわい。
- ・ 感染しないか不安です。
- ・ もし家族がかかってしまったら、どうなるんですか。
- ・ 変異したウイルスがこわいです。
- ・ ワクチンを打つのは副作用があるし、私のお母さんも打ったら1週間くらい寝込んでしまいました。だから、不安です。
- ・ かかったらいやだし、いじめが出たらもつといや。
- ・ みんなにからかわれるのが、いや。
- ・ 家族がかからないか心配です。
- ・ かかったら、どうすればいいですか。
- ・ コロナになったら相川小でうつったら、友達に会えなくなる。
- ・ 自分がうつったら、家族にうつしちゃうかもしれない。
- ・ クラスターにならないか心配。
- ・ 水を飲む時にマスクをしないで離している人がいて心配。
- ・ 密になっていることが心配。くつつくのはやめてほしい。
- ・ 密になって、おにごっこをしていて心配。
- ・ もしコロナで悪口を言われたり、こっちに来るなど言われたら心配。
- ・ いつ終わるのか、かかってしまったらどうしようという不安がある。
- ・ 最近、山梨の感染者が増えているから少し不安。
- ・ コロナの影響でいろいろなことが中止や延期されるなかで、6年生は修学旅行に行けるのか。最後の運動会はできるのか。
- ・ マスクをはずしている人がいて嫌。

世間は、オリンピックやワクチンの話題ばかりです。子どものことは、どうなっているのでしょ

うか。どの子どもも口にはしないけれども、不安や心配、恐怖、不満を抱えています。本当は、泣き出しそうな気持ちだと思います。

相川小では、このような子供たちの思いを受け止めて、できるだけ早い時期に少しでも、子どもたちの疑問や不安に答えることができるような取組をしていきたいと思っています。

「引き渡し訓練」を終えて

より実践的・現実的な「引き渡し訓練」を行って、課題を洗い出すことを目的に本年度の引き渡し訓練が行われました。

訓練実施後に行った保護者アンケートには、大勢の保護者の皆様から貴重な提起や取組への励ましなどを頂戴しました。ご協力に心から感謝します。

今回、教室待機を想定した引き渡し訓練を行ったことで、私たち教職員、子どもたち、保護者の皆様に少なくとも「経験値」が身につきました。そして、この経験はとても大切だと思います。

保護者アンケートと教職員の反省については、学校ホームページで閲覧できるよう後日、保護者様宛ての安心メールでご案内させていただきます。

2学期の学校運営に向けて

報道によると、今後は2倍近い感染力をもつデルタ株ウイルスの流行が、7月下旬から8月にかけて出現するのではないかとする予測が出ています。先のことは全く予想できませんが、いよいよ2学期の学校運営について、判断を示していかなければならないタイミングになってきています。

10月に予定されている6年生の修学旅行については、「子どもたちも保護者の方も、安心な気持ちで安全を確保した内容」で実施することができるかどうか、連日、情報収集や運営についての検討を重ねています。

また、11月に予定されている運動会についても当日の運営だけでなく、運動会までの過程についても十分に検討を進めていきたいと思っています。

早ければ1学期末までに、学校の判断をまずは子どもたちに、そしてご家庭にお知らせします。

学校の判断につきましては、「子どもの安心・安全」を最優先とした上で、想定される可能な限りのことを考え、総合的な見地に立っての判断であることを踏まえて、どうかご理解、ご支援をいただきますようお願いいたします。

～「地域感染レベル2」を受けて～

山梨県内での新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、6月17日（木）より「地域感染レベル」がこれまでの「レベル1」から「レベル2」への引き上げとなりました。

いろいろなレベルやステージが国などから示されている中で、この「地域感染レベル」は市町村が決定する学校教育活動での指標です。

レベルが引き上げられたために、教育活動にも影響が生じています。例えば、家庭科の調理実習はできなくなりました。本校では、幸いなことに既に調理実習が終わっていました。また、音楽では、合唱や高唱、楽器を使った学習活動を行うことができません。これまでは、校庭を使ってリコーダーの学習をしてきましたが、制限がかかってしまいました。理科の授業での対面での実験も行うことができないので工夫が必要になりました。

このような状況下での教育活動になっていますが、これまで行っていた感染防止対策を改めて徹底していきたいと思えます。

ご家庭へのご協力もお願いばかりで申し訳なく思っておりますが、「手洗いの励行」「マスクの着用」「3密の回避」については、もう一度、お子さんと一緒に再確認していただきたいと思えます。

「いじめ」について学び・考える取組

相川小では、この6月に「いじめ防止」に関わって、いくつか取り組んできました。

まず、「友達関係アンケート」を全児童を対象に実施しました。「いじめ」は、相手がいじめられている、いじめだと感じるものは全て「いじめ」であると規定されています。このように中で集計の結果、18件の「いじめ」を認知しました。

結果を受けて、各学級担任がヒアリングを行ったり、状況確認をしたりしました。併せて、問題の解決に至る指導も行いました。継続した案件にならないよう今後も留意していきます。

次に、全学級で「いじめに関する指導」を学習として行いました。いじめ指導というと、「いじめは、いけない」「いじめは、ダメ」という所までの指導に終始してしまいがちですが、今回は学年の発達段階に応じて「いじめのことを考える」取組を行いました。（その一部ですが、ホームページ「相川小ブログ」でも紹介しています。）

また、学校独自の自作動画資料（3回シリーズ）を児童玄関ホールの大型テレビで視聴する機会を設けました。

コロナ禍の中で、子どもたちの友人関係などにも悩んでいることもあると思えます。本校では、スクールカウンセラーとの面談も受け入れていきますので、気軽に担任へ相談してほしいと思えます。

いじめの「重大事態」はあってはなりません。

反面、子ども日常生活には、様々な問題やトラブルもたくさんあります。同じ相川小の子ども同士、そして保護者同士です。「うちの子も、よその子も」の気持ちで、みんなで子どもを育てていく、見守っていく視点も大切にしていきたいと思えます。

夏休みの課題を見直しました

夏休み中の子どもたちの課題について、本年度見直しを行いました。

大きく3つに「必修課題」、そして「選択課題」、「自由課題」として、計画的に学習すること、自主的に学ぶことを大切にしていこうと目的を見直しました。

「必修課題」では、主に1学期の学習の復習です。「夏休みの友」も活用します。

「選択課題」では、希望者による読書感想文（3年以下）、読書感想文・理科自由研究・ふるさと山梨の3つからの1つ選択（4年以上）としました。

「自由課題」では、学校が仲介する「応募作品」も領域毎に精選を図りました。また、その分を家庭で「個人応募」することができる各種応募を学校ホームページで紹介します。ぜひ興味あるものに取り組んでみてください。また、学年ごとに「自主学習」の内容の例示をすることとしました。

詳しいことにつきましては、「学年だより」・「相川小の作品募集」でお知らせします。

子どもの姿勢に感心しました

～お手紙ありがとうございました～

先日、地域で子どもたちの登下校指導を熱心に取り組んでいただいている方から、丁寧なお手紙を頂戴しました。

お手紙の内容は、登校班の子どもたちも規則をよく守り、今日まで無事故で過ごしていることを褒めてくださいました。そしてそれが何よりもうれしいことだと手紙の中でおっしゃっていました。

その中で、「夢と希望」ということにふれられて、それは笑顔での子どもたちとの対話とおっしゃっていました。

子どもたちが笑顔で「行ってきます」「ただいま」の声を聞きたいものということでした。

学校では、早速、子どもたちにこの話をしました。次の朝、翌日の朝と、子どもたちから「あいさつができました」との声が聞かれ始めました。

このように子どもたちのことを大事に気遣ってくださる地域の方が、いらっしやることに深く敬意を表すと同時に、素直に取り組んでいこうとする子どもたちの気持ちと姿勢に感心しました。